

平成22年度の学校評価について(学校改善アンケート結果の報告)

山梨県立都留高等学校

平成22年度において、開かれた学校づくり・学校改善を進め、次年度の教育活動・学校運営に資するために、生徒、教職員、保護者の三者による学校評価に係わるアンケートを実施しましたが、その集計結果についてご報告申し上げます。生徒・教職員については、第1回目を平成22年9月(1～3年次)、第2回目を平成23年1月(1～2年次)に実施し、また保護者へのアンケートについては、生徒および教職員の第1回目の集計と分析を報告した上で、同じく1月にご協力願いました。

以下の資料は、生徒と教員への共通質問、また保護者への類似した質問に関して、第1回目と第2回目の数値を比較・分析し、今後の改善に向けての評価と反省といたしました。

【資料】

教職員と生徒に共通の質問項目①～⑫の5段階評価(5が最高、3が普通、1が最低)の結果です。数値は3以上の評価をした割合(%)。上段が1回目、下段が2回目の集計値です。回収率:1回目 教員58人100%、生徒782人98%

2回目 教員56人 96%、生徒507人98%

保護者は1月の調査分 491名

質問項目	回	教員	生徒	保護者
① 学校は一人ひとりを大切にされた指導を行っている。	1	77	88	—
	2	82	81	
② わかりやすい授業をしている。	1	98	85	—
	2	83	84	
③ 一日7枠の授業展開は教育効果があり、役立っている。	1	86	71	79
	2	89	72	
④ 都留高生の服装やマナーが良い。	1	91	83	83
	2	89	84	
⑤ 評価は公平に行われている。	1	91	86	—
	2	92	83	
⑥ 部活動は活発である。	1	91	88	82
	2	91	85	
⑦ 土日の学習諸行事は学力向上に効果がある。	1	87	85	76
	2	87	83	
⑧ HPなどで学校の活動が適切に情報提供されている。	1	74	70	74
	2	80	68	
⑨ 三者懇談などを通して教育相談が定期的、適切に行われている。	1	94	89	82
	2	96	85	
⑩ 環境美化や清掃活動が積極的に行われている。	1	84	86	—
	2	92	84	
⑪ SSHIは地域、保護者、小中生などに、広く認知され関心が高い。	1	86	70	71
	2	87	68	
⑫ 生徒・保護者・学校の三者の相互理解が図られている。	1	94	87	79
	2	94	85	

【各設問に関する補足説明・評価、反省】

- ① 単位制の特徴を活かした教育課程を編成する中で独創的な科目設定により、学習効率を高める工夫として少人数・習熟度授業を展開している。その意味からも、評価が注目されたが、三者にばらつきはあるものの約8割が肯定的な評価を下した。今後も、きめ細かく一人一人の生徒に配慮した教育活動を展開していきたい。
- ② 前述のように生徒の学力差に応じた習熟度や少人数授業を展開して、一人一人に目が届きやすいようにしている。また、教職員の授業力や資質の向上を目指し、教員相互の授業参観研修を通年の努力義務と定め、相互の授業改善に努めている。
- ③ 生徒の進路実現を果たすために、教員の約8割、生徒の7割、保護者の約8割が7校時の展開を必要と考えている。学習と部活動のメリハリをつけ、その両立に向けて計画的・継続的に努力することができる生徒の育成を目指したい。
- ④ 三者とも概ね良好であるが、一部の男子生徒にワイシャツのすそを出したり、上履きのかかとを踏んづけたり、若干乱れが目立つ。茶髪はほとんどなくなり、挨拶もきちんと励行されている。ただ、時々電車の乗車マナーの悪さが指摘されている。継続的な指導に努めたい。
- ⑤ 今年度から定期試験を5回に変更し、休業明けの学力テストを課題確認試験に改め、その成績結果も評価の中に組み入れるとともに、課題の提出状況や授業態度も加味しながら、総合的な、公平な評価をするような評価体制をとっている。
- ⑥ 部活動については三者が「活発に行われている」という高い評価で一致している。質の高い文武両道の推進を重点目標に掲げているが、生徒もそれを意識し、それぞれの部や個々の生徒が明確な目標をたて、日々努力している結果といえる。
- ⑦ 今年度から土曜講座は外部講師ではなく、本校教師による指導に変更し、保護者の負担軽減を図ると同時に、普段の授業や週末課題と連動させてより緻密に教育効果が高められるよう工夫している。土日の土曜講座や学習会などの学習行事についても、生徒や保護者からも積極的な意見が多く、勇気づけられる。
- ⑧ HPの更新が少なく、情報についても、もう少し写真を増やすなど改善が必要である。本校のHPを開けば、調べたいこと、知りたい、見たいことがすぐに見つけ出せるように、今後もその充実に努めていきたい。
- ⑨ 年2回の懇談する機会を設定して生徒の家庭での生活の様子を知ったり、学校での活動の様子をお知らせするとともに、生徒の進路の確認や目標の設定などについて生徒・保護者・教職員の三者の十分な協議により、相互理解に努めている。
- ⑩ 清掃活動は生徒教職員全員で、またゴミの分別にも積極的に取り組んでいる。分別したものは地域の福祉作業所に引き取ってもらっている。今年度は特に、資源ゴミの分別を徹底し、ジュースパックの回収も開始した。
- ⑪ SSHの再指定が認められ、新たなSSHの活動を展開している。新しいテーマ「次世代の科学を担う人材の育成と地域における科学教育発信拠点校を目指して」という課題のもと、本校全体及び地域の児童生徒にも広げた研究活動を模索中である。
- ⑫ 三者とも全般的に良好で、お互いの相互理解や信頼が得られていることが伺われる。ただ、学年・学級通信、図書館便りや保健だよりなどの配布物がきちんと保護者の手に渡らない(約2割)という調査結果が得られたので、改善策を考えていきたい。

H 2 2 年度 保護者アンケート評価

回収総数 491 数値は% (四捨五入)

5段階評価 (5 4 3 2 1で評価してください。)
5が最高(強く思う)、3は普通、1が最低(全く思わない)です。
わからない場合は0をマークしてください。

質問 番号	質 問 項 目	5	4	3	2	1	0
1	都留高の教育目標や校訓等について知っている。	17%	21%	38%	5%	5%	15%
2	学校は教育活動全般を通して、全人的な生徒の育成に努めている。	15%	31%	37%	6%	1%	10%
3	1日7校時の授業展開は学習成果をあげるために効果的である。	25%	32%	22%	6%	2%	12%
4	子どもの心の悩みや個人的な問題について、担任や保健室などに相談できる。	7%	19%	42%	12%	3%	17%
5	子供は学校行くのが楽しいと感じている。	25%	27%	32%	5%	3%	7%
6	部活動は活発に行われている。	38%	27%	17%	5%	3%	10%
7	週末や長期休業等を活用した土曜講座・課外・模擬試験は学力の向上に効果をあげている。	17%	34%	27%	8%	2%	12%
8	都留高の生徒の服装やマナーはきちんとしている。	18%	34%	31%	5%	2%	9%
9	ホームページや便りなどで、学校や生徒の活動を知ることができる。	8%	19%	48%	11%	2%	12%
10	三者面談及び個別面談を通じて、進路相談が適切に行われている。	21%	32%	30%	6%	1%	10%
11	学校からの通知、成績表や各種の便りなどは必ず保護者に届く。	30%	21%	23%	11%	5%	10%
12	学校の教育諸活動や行事に際して、保護者としてできる限り協力している。	11%	22%	42%	11%	2%	11%
13	SSH(スーパーサイエンスハイスクール)に指定され、様々な活動を行っていることを知っている。	21%	22%	31%	9%	5%	12%
14	生徒・保護者・学校の三者の相互理解が図られている。	10%	28%	42%	5%	2%	14%